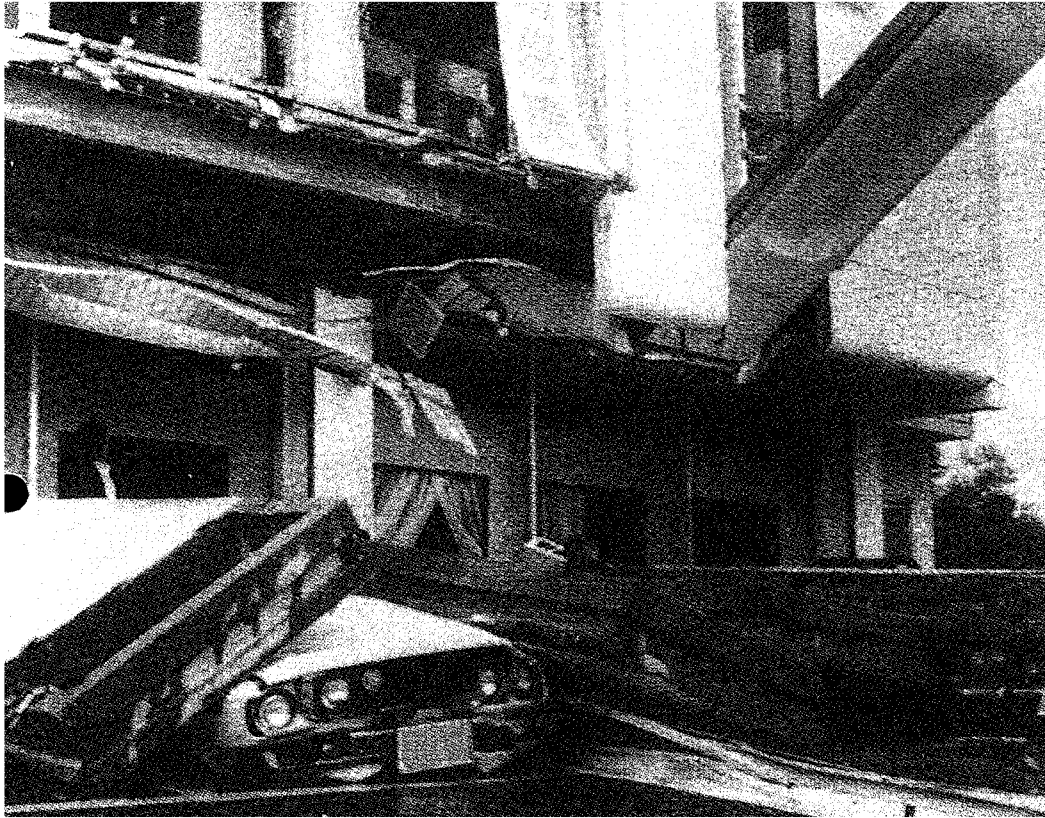


わが家と暮らし

9月1日は
防災の日

いつ起きても不思議ではない

東海地震



地震、雷、火事、オヤジといえばこわいものの代名詞です。最初に地震があるのは、その予知が困難で、一度発生したら被害が広範で大きいからです。大正十二年の関東大地震では、十四万二千八百七人の尊い生命が奪われました。最近発生した地震では、今年六月のイラン大地震が記憶に新しいところです。

日本で明日発生しても不思議ではない大地震に『東海地震』があるのをご存知ですか。静岡県駿河湾から東海沖にかけての海底に巨大地震（マグニチュード8以上）を引き起こす地震エネルギーが蓄積されていることが発見されたのです。『東海地震』は、その規模が大きく、あたえる影響（被害）も広い範囲にわたって大きいと予測されています。

そこで、被害をできる限り少なくするために、あらかじめ地震の発生を予報して社会全体がそれを迎え撃つ準備をするという体制がとられています。昭和五十三年に『大規模地震特別対策措置法』が制定、施行され、それに基づいて都留市も「地震防災対策強化地

域」の指定を受けています。この体制の最も特徴的なことは『東海地震』の発生を事前に予知し、それを社会全体に知らせる「地震予知情報」のしくみがつくられていることです。この予知情報を「警戒宣言」と言っています。

しかし、せっかく大規模地震の発生を事前に予知し、警戒宣言が発せられても、私たちがきちんとした対応をしなければ何にもなりません。地震の発生を防ぐことはできませんが、日頃の心がけ次第で被害を最小限に食い止めることができます。

九月一日には、市内全域で総合防災訓練が実施されます。自主防災組織が行う訓練に積極的に参加し、いざというときのために備えましょう。

「警戒宣言」の

知らされ方

- ①サイレンがいつせいに鳴る。
サイレンの吹鳴は 45秒鳴る 15秒休むを三回繰り返します。
- ◎防災無線で市長から警戒宣言が伝達されます。
- ◎警鐘（半鐘）が五点連打で繰り返して打ちならされます。
- ②聞きなれないサイレンや警鐘を聞いたとき、ラジオ、テレビの報道を聞いてください。報道は、一般の番組をやめて地震情報や迎え撃つ準備体制の報道に切り換えられます。
- ③地域の防災関係機関の広報車がふれまわります。